

SD 法を用いたインテリアイメージの評価における、 形容詞尺度評価の個人差の現れ方に関する研究

日大生産工(院) ○市原 実果
日大生産工 山岸 輝樹

1. 背景と目的

インテリア研究等のイメージ研究において、SD 法によってイメージを感覚量として捉え、得られたデータを因子分析等によってその構造を評価する研究は多い。しかし、本来は3次元のデータであるのに対して、個人差については問題とされていないことが多い。本研究では、インテリアのイメージに関する SD 法によるアンケートを元に、各形容詞対尺度の評価において個性的な違いがどのように存在しているのかについて明らかにすることを目的とする。

2. 調査方法

調査は、SD法によるインテリアイメージの調査を行った。以下に調査の詳細を述べる。

2.1 形容詞対の選定

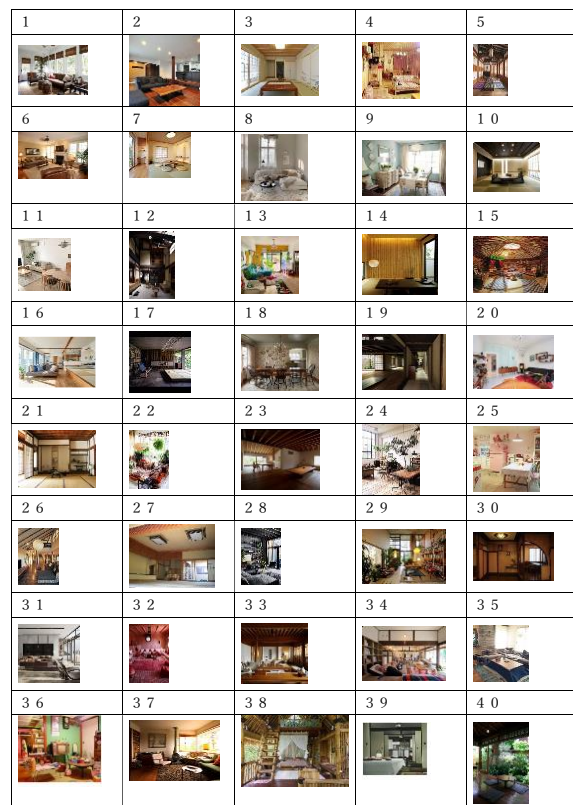
インテリアイメージを示す形容詞対を選定する際、日本建築学会論に掲載された、インテリアを対象としてSD法を用いた論文25本を参考にする。これらの論文で用いられた形容詞対388対についてKJ法を行い、意味が同一、または類似していると考えられる形容詞対をまとめ、さらに小グループ・中グループ・大グループの順に、3段階のグループ分けを行った。各大グループに入っている形容詞対を代表する形容詞対を表札としてかき、この表札として書かれた形容詞対を抽出し、計35対の形容詞対を選定する。(Table.1)

2.2 写真選定

SD法による調査に用いる写真は、屋内空間であるインテリアの写真を対象としてその中でも住宅の公室に限定し、インテリア全体を示す写真を抽出した。選定するうえで、解像度が低い写真を除き、三面以上が映っている写真を選定した。今回、居室を選んだ理由としては、今回、インテリアを評価する際の「個人差」を

Table.1 形容詞対 35 対

形容詞対35対			
清潔感のある感じ	不潔な	素材感のない感じ	素材感のある感じ
静かな感じ	動的な感じ	無彩色な感じ	カラフルな感じ
緑の少ない感じ	緑の多い感じ	上品な	下品な
楽しい	つまらない	洋風	和風
落ち着きのある感じ	落ち着かない感じ	古い	新しい
派手な	地味な	複雑な感じ	単純な感じ
開放的な	閉鎖的な	平凡な	個性的な
非対称的な感じ	対称的な感じ	無造作な感じ	意図的な感じ
強い	弱い	方向性のある感じ	方向性のない感じ
柔らかい	堅い	狭い	広い
冷たい感じ	暖かい	都市的な	田舎の
醜い	美しい	ばらばらな	統一感のある
変化のある	単調な	安定した	不安定な
軽やかな	どっしりした	男性的	女性的
垂直な感じ	水平な感じ	プライバシーのある	プライバシーのない
明るい	暗い	潤いがある感じ	殺風景な感じ
ゆったりした	窮屈な	好き	嫌い
伝統的な感じ	現代的な感じ		



Pic.1 写真 40 枚

A study of individual differences in the evaluation of interior images using the SD method

Mika Ichihara, Teruki Yamagishi

考慮するため、特定の用途の部屋として居室に絞り、様々なテイストのインテリア写真を用いた。写真選定は、日本・海外それぞれのインテリアのキーワードを抽出し、それぞれのキーワードでネット上で検索された日本のインテリア20枚、海外のインテリア20枚、合計40枚を選定した。(Pic.1)

2.3 SD法によるアンケートの実施

調査は9月6日～13日の5日間、合計26名の学生を対象として調査を行った。Zoomの画面共有を用いて、各被験者のパソコン画面の全画面表示で、インテリア写真40枚を共有しGoogle formから各写真の評価をもらった。インテリア写真の表示サイズによる評価の誤差が生じないように、調査を行う前に、インテリア写真のサイズを一定の大きさに統一させるために全画面表示になっているかを確認した。また、画面の明るさを統一させるため、パソコンの明るさが最大になっていることを確認した。調査の終了後、Google formにて集計したデータをエクセルデータに変換した。

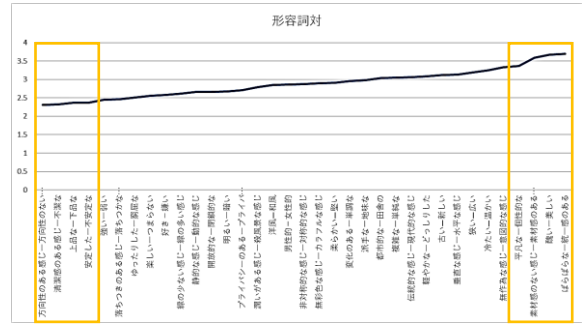


Fig.1 イメージプロフィール

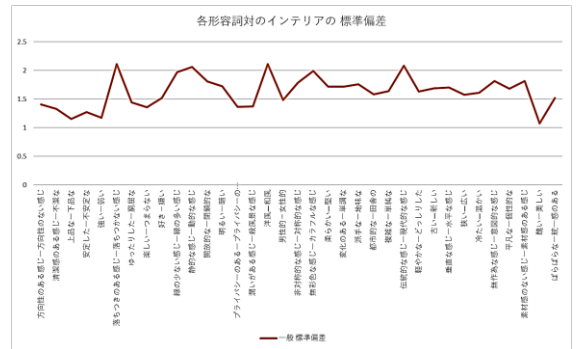


Fig.2 各形容詞対の標準偏差

3. インテリアに対する形容詞対評価尺度評価

3.1 イメージプロフィールについて

Fig.1のイメージプロフィールは、「3」を中間とし、大きな値を取る形容詞対として、「ばらばらな統一感のある」を最大値として、「醜い—美しい」「素材感のない感じ—ある感じ」「平凡な—個性的な」が続いた。小さい値をとる形容詞対として「方向性のある感じ—方向性のない感じ」を最小値として「清潔感のある感じ—不潔な」「落ち着いたきのある感じ—落ち着いたくない」「強い—弱い」「上品な—下品な」「安定した—不安定な」が続いた。また、Fig.2より各形容詞対の標準分散を見ると、1.40～2.11の範囲の値を取っていることが分かる。

3.2 インテリアごとの形容詞対の特徴

インテリアごとい評価の分散を取り、その平均を求め、小さい順に並び変えたのが Fig.3 である。分散は 0.14～1.62 の範囲の値を取り、分散の小さいものには「無彩色な感じ—カラフルな感じ」を最小値として、「ゆったりした—カラフルな感じ」「洋風—和風」「男性的—女性的」が続き、大きいものには「無造作な感じ—意図的な感じ」を最大値として「垂直な感じ—水平な感じ」「非対称的な感じ—対照的な感じ」「素材感のない感じ—素材感のある感じ」が続いた。

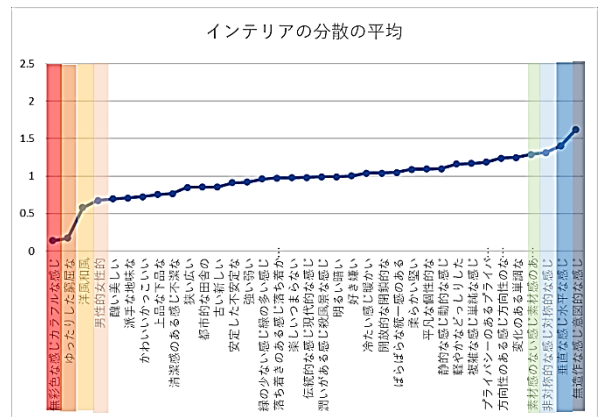
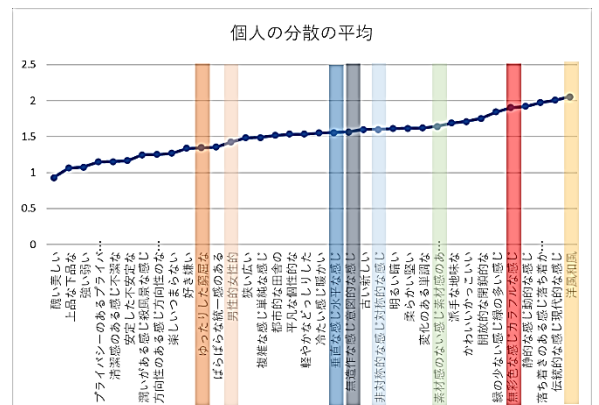


Fig.3 各形容詞対のインテリアの分散平均



3.3 個人ごとの形容詞対の特徴

個人の回答における分散を小さい順に並べた図 (Fig.4) をみると、分散は、0.93～2.05 の

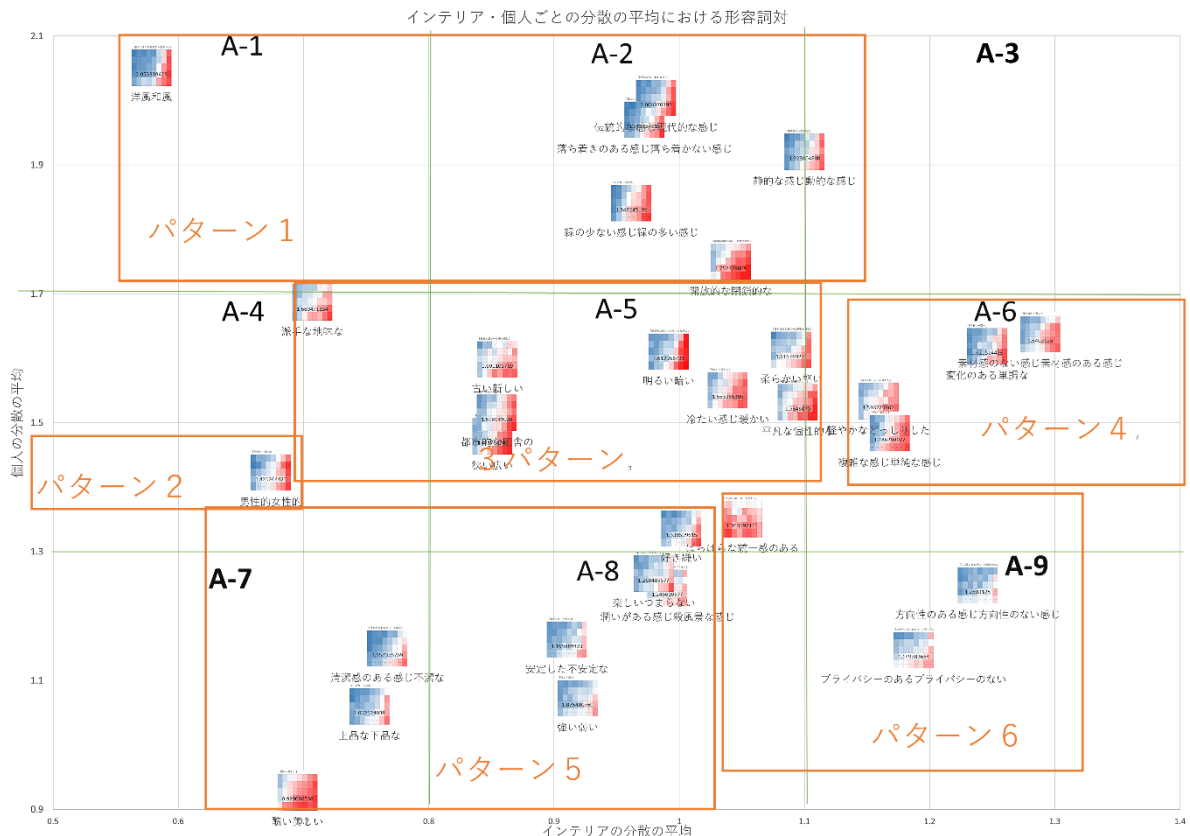


Fig.5 個人・インテリアの分散平均における形容詞対のマトリクス図の分布

範囲の値を取っており、全体的にインテリアの分散平均より大きい値を取っていることから、個人ごとの回答のばらつき度合いは、インテリアごとの回答のばらつき度合いよりも大きな値を取るためである。また、形容詞対に関して、インテリア側の分散平均値の小さいもの・大きいものと比べると、インテリア側で小さい値を取る「無彩色な感じーカラフルな感じ」「洋風ー和風」は個人側では大きい値を取るため、これらは、インテリアより個人の分散平均に影響を受ける形容詞対である。インテリア側で大きい値をとる「無造作な感じー意図的な感じ」「垂直な感じー水平な感じ」「非対称的な感じー対照的な感じ」「素材感のない感じー素材感のある感じ」は個人側では中間の値を取るため、これら形容詞対は、インテリアの分散の影響を強く、個人の分散の影響を中程度に受ける形容詞対であると分かる。

4. インテリア・個人の両面からみた形容詞対尺度評価

4.1 マトリクス図の作成について

各形容詞対について、インテリア写真(横軸)×個人(縦軸)から成るデータのマトリクスの表を作成した。この際に横軸の写真については左から右に、縦軸の個人については上から下に平均得点が大きくなるように並べ替える。その上で視覚的に評価が可能となるよう、評価の高い項目は赤、評価が低い項目は青、中間は白で表す。次に、この作成した各マトリクス図を、情報を要約し解釈しやすくすることを目的に、縦に8分割、横に5分割し40マスのマトリクスへと圧縮した。

4.2 両分散平均

pic. 3は縦がインテリアの分散平均、横が個人の分散平均から成るグラフで、該当する箇所に、各形容詞対と、3.1で作成した、その形容詞対に対応する回答データの個人(縦)×インテリア(横)からなる圧縮マトリクス図を配置した図である。この際、横軸方向において外れ値である4つの形容詞対を除き、特にインテリアの平均分散0.5~1.4の値、個人の平均分散0.9~2.1の値の範囲に絞った。この散布図を3

×3 マスの9つの領域に分け、左上から順に領域 A1～A9 と名前を付けた。

4.3 両分散平均によって示されたパターン

図の領域 A-1 の領域はインテリアの分散平均が大きく、個人の分散平均が小さい部分であることから、理論上マトリクス図は縦のインテリアごとに評価がばらつき、赤・白・青が出てきて、横の個人ごとの評価はばらつきが小さいため同様の色が連なる「垂直パターン」となる。実際に、該当した「洋風—和風」のマトリクス図は予測通りの「垂直パターン」の傾向を示した。

領域 A-3 の領域はインテリア・個人の分散平均共に大きい部分であり、理論上、縦の個人と横のインテリア共に評価はばらつくためそれぞれ赤・白・青の順に配色され、マトリクス図全体として左上に青、見後下に赤、左下から右上にかけて白が斜めの帯状に分布する「斜めパターン」となる。実際に該当した「静的な感じ—動的な感じ」は理論通り、「斜めパターン」の傾向を示した。

領域 A-7 はインテリアの分散平均、個人の分散平均共に小さい部分であり、理論上マトリクス図はたて縦横共にばらつかないので、ほぼ一面が単色でおおわれ、「単色パターン」となる。実際に該当した「上品な—下品な」のマトリクス図は「単色パターン」と同様の傾向を示し、右下のみ異なる色で着色されていた。

領域 A-9 は個人の分散平均が小さく、個人の分散平均が大きい部分であり、理論上のマトリクス図は縦の個人はばらつかずに単一の色が続き、縦のインテリアはばらつくため赤・白・青が帯状に分布する「水平パターン」のとなる。実際該当した、「プライバシーのある—プライバシーのない」のマトリクス図は「水平パターン」と同様の傾向を示した。

次に、各マトリクス図の傾向が近いものごとにグループ分けを行い、パターン1～パターン7の7つのグループ分けを行った。パターン1は領域 A-1 と A-2、一部 A-3 の範囲に分布していて、「垂直パターン」に該当する。パターン2は、領域 A-4 に分布し、「垂直パターン」と「斜めパターン」の中間に該当する。パターン3は領域 A-4 と A-5、に分布し形容詞対によって「垂直パターン」「斜めパターン」「平行パ

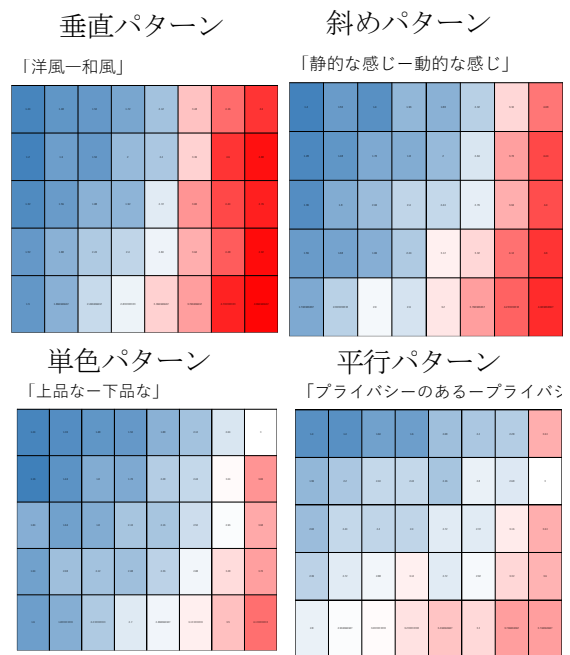


Fig.6 個人×インテリアのマトリクス図

ターン」それぞれの要素に該当していて、若干中間「3」の評価とされているインテリア群が増加している。パターン4は、領域 A-6 に分布していて「斜めパターン」と「単色パターン」の中間に該当する。パターン5は領域 A-7、A-8 に分布し、「単色パターン」と「平行パターン」のものが該当していた。パターン6は領域 A-9 に分布していて、「平行パターン」に該当する。

5. まとめ

以上より、SD法を用いたアンケートにおいて得られる3次元データの形容詞対尺度評価において、個性による違いが少ないもの、多いものがあり、それらとは別にそれら中間にもいくつかのパターンが存在しているということが明らかになった。